

本号の編集後記は心躍りつつ筆をとる心境にはならない。病理面では岩論論文は遅れて読めず、渡辺教授の序説と岩下論文からは、臨床に密接した内容が汲み取りにくいからである。これは病理学的には新しい染色法や電顕によって解明されたカルチノイド産生物質の知識を基に、その定義、分類、発生などがメインテーマにされているのに対し、臨床では臨床的に捉えられる機能の有無を問題にしているせいであろう。もちろん、基礎的知識のフィードバックが、小泉の review による主張—クラシックなセロトニン産生に基づく症状のみをカルチノイド症候群とするのではなく、カルチノイド腫瘍が産生する種々のホルモンによってもたらされる症状として捉えたい—toに連なることは理解できるが……。渡辺教授が今後の魅力ある課題としている産生物質の量と臨床症状との相関の解明が待たれる。

臨床の面では9mm以下の直腸カルチノイドはポリペクトミーで治療しても大丈夫らしいという石川論文が目玉される。しかし、症例が少なく今後の検討で結論が出されるべきであろう。また、この論文でカルチノイドが良性と悪性の2つに分けられるという従来の記載を踏襲しているのが気がかりである。胃癌でも粘膜内癌は良性か？と言いたくなるからである。

Moertel CG の論文は急いで読んだら本当に疲れた。特に小腸のカルチノイドは本邦では症例が少なく欧米に学ぶほかはないと思って張り切って読んだが、9年前に勉強したことに加わる新知見は、それほどないと思う。絵になる多数の小腸カルチノイドをたくさん診断してみたいが、見つからないほうが日本人にとって幸せなのかもしれない。

胃と腸

9月号(第24巻・第9号)予告

発売予定 9月4日
定価 1,854円

主題／胃粘膜下腫瘍の診断—現況と進歩

序説 主題	胃粘膜下腫瘍の診断—現況と進歩、将来への課題……………福岡大筑紫病院・内	八尾 恒良
	胃粘膜下腫瘍のX線診断の現況……………順大・消内	浜田 勉・他
	胃粘膜下腫瘍の内視鏡診断の現況……………東京医大・4内	川口 実・他
	胃粘膜下腫瘍の超音波内視鏡による診断の進歩……………山口大・1内	相部 剛・他
	胃粘膜下腫瘍の超音波内視鏡による診断の進歩……………自治医大・消内	吉田 行雄・他
	胃粘膜下腫瘍の病理診断の進歩	
主題症例	—免疫組織化学的手法を中心として—……………国立がんセンター・病理	廣田 映五・他
	短期間に形態を変えた胃平滑筋肉腫の1例……………国立がんセンター・放診	縄野 繁・他
	胃壁外へ発育した平滑筋肉腫の1例……………京都木津川病院	土屋 和彦・他
	臨床的に平滑筋腫と診断された胃神経鞘腫の1例……………浜松医大・1病理	甲田 賢治・他
	典型的な粘膜下腫瘍様形態を呈した	
	早期胃腸様腺癌の1例……………東京女子医大・消C	光永 篤・他
	特異な超音波像を呈した胃平滑筋腫の1例……………名大・2内	有沢 富康・他
	多発性異所性胃嚢胞症の1例……………福岡大筑紫病院・消内	望月 祐一・他
今月の症例 初心者講座	褪色を呈した微小IIC型大腸早期癌の1例……………秋田日赤病院	工藤 進英・他
	食道検査法(21)超音波内視鏡検査(2)……………山口大・1内	伊藤 忠彦・他
	消化器疾患とUS・CT—V.大腸>その2<……………国立がんセンター・放診	牛尾 恭輔・他

胃と腸 (第24巻 第8号)

編集 早期胃癌研究会

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 社内案内 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5714

販売部直通 (03) 817-5659

1989年8月25日発行(毎月25日発行)

1部定価 1,854円(本体1,800円)(配送料80円)

年々め予約購読料 21,136円(本体20,520円)

(送料弊社負担)

FAX (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印刷所 永和印刷(株) ☎ (03) 813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 814-5771

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1989, Printed in Japan.

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権の侵害となることがありますので御注意下さい。

(担当) 窪田・長谷川・荻原・大竹